結

JCI石巻がつくる広報誌
―YUI―

2022.3
vol.1

JCI Ishinomaki

理事長挨拶

笑顔溢れる地域(まち)へ

～情熱を持ち行動する青年が未来を創る～

2021年度事業報告
2022年度開催事業
2022年度委員会紹介

特別対談

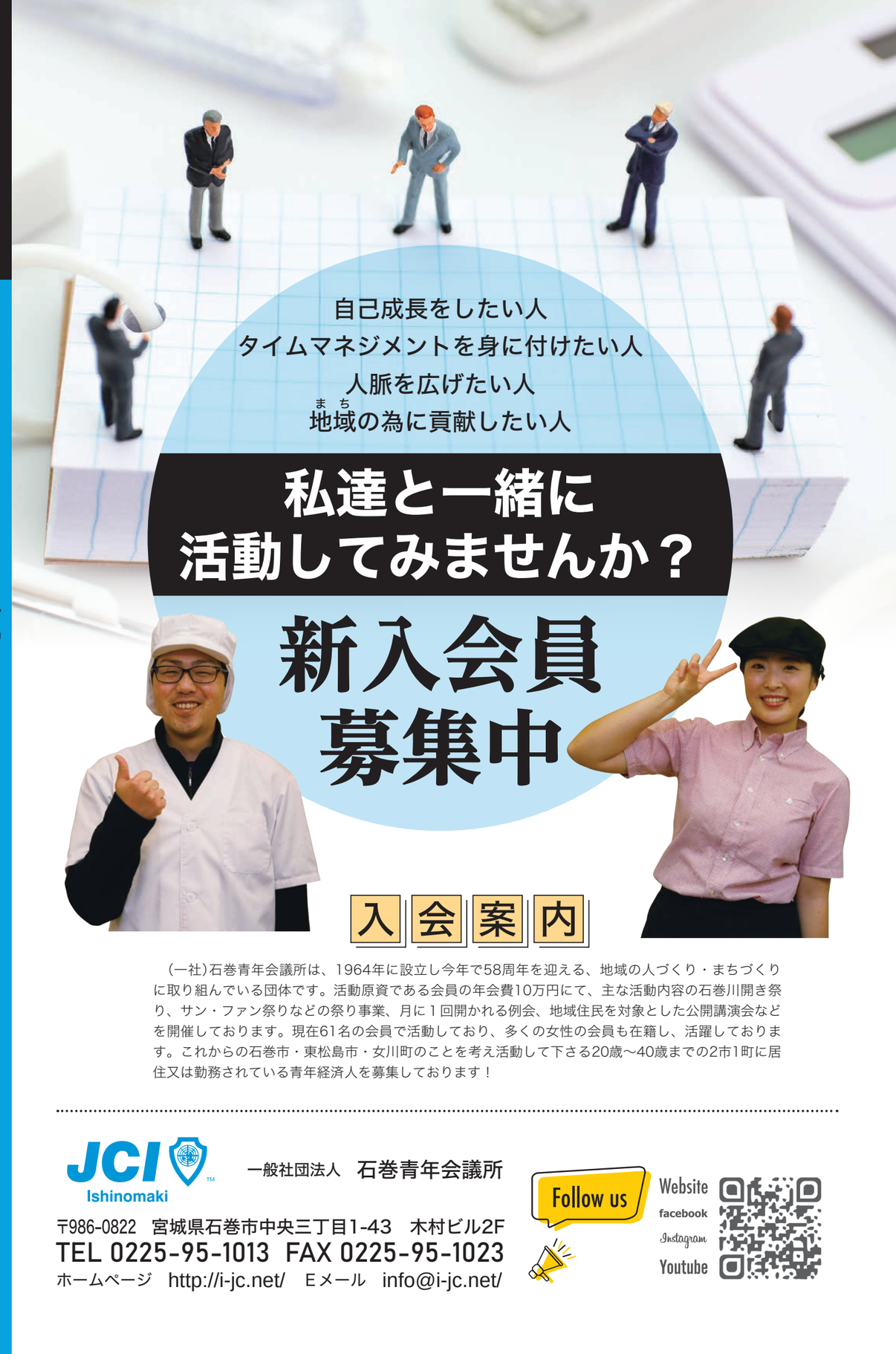
次代を担う三つの青年組織
代表が語る想いとは

石巻商工会議所青年部
会長
鈴木　孝正氏

×

一般社団法人 石巻青年会議所
理事長
木村　英勝氏

2022.3 vol.1
JCI石巻がつくる広報誌 結 ―YUI―
発行／一般社団法人 石巻青年会議所



自己成長をしたい人
タイムマネジメントを身に付けたい人
人脈を広げたい人
地域(まち)の為に貢献したい人

私達と一緒に活動してみませんか？

新入会員募集中

入会案内

（一社）石巻青年会議所は、1964年に設立し今年で58周年を迎える、地域の人づくり・まちづくりに取り組んでいる団体です。活動原資である会員の年会費10万円にて、主な活動内容の石巻川開き祭り、サン・ファン祭りなどの祭り事業、月に１回開かれる例会、地域住民を対象とした公開講演会などを開催しております。現在61名の会員で活動しており、多くの女性の会員も在籍し、活躍しております。これからの石巻市・東松島市・女川町のことを考え活動して下さる20歳～40歳までの2市1町に居住又は勤務されている青年経済人を募集しております！

JCI Ishinomaki
一般社団法人　石巻青年会議所
〒986-0822　宮城県石巻市中央三丁目1-43　木村ビル2F
TEL 0225-95-1013　FAX 0225-95-1023
ホームページ　http://i-jc.net/　Eメール　info@i-jc.net/

Follow us
Website
facebook
Instagram
Youtube

理事長挨拶

一般社団法人　石巻青年会議所　2022年度スローガン

笑顔溢れる地域（まち）へ

～情熱を持ち行動する青年が未来を創る～

石巻青年会議所の広報誌をご覧いただきまして誠にありがとうございます。

一般社団法人石巻青年会議所（以下JCI石巻）は20歳から40歳までの青年経済人が所属しており、地域の人づくり・まちづくりに取り組んでいる団体です。

1964年に創立され本年で58年目を迎えます。行政や各種団体、地域の皆様より私たちの運動に深いご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。これからも地域に必要とされる団体として、地域と共に歩んでまいりたいと思います。

主な活動内容は会員を対象にした月に一度の例会の開催、サン・ファン祭り、石巻川開き祭り、北上川フェアなどの祭り事業や青少年育成事業、住民を対象にした公開の講演会や行政と連携し学生を主体とした政策コンテストを開催しております。各事業を通じて住民の意識を地域に向け、私たちの暮らす圏域がより良くなる為に活動しています。また事業構築や委員会運営を通して会員の人材育成に積極的に取り組んでいる団体です。

青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」を目指し、全国に691団体（LOM）存在し、会員数は約30、000人所属しており、日本だけでなく世界的な組織です。現在、JCI石巻では61名の会員がおり、女性の会員も多く在籍しております。様々な職業の方が在籍し、40歳までという制限があり、役職は単年度制で多くの成長の機会があります。会議体として会議に重きを置き、限られた時間の中で行う会議において準備や段取りの重要性を学び、時間の使い方が向上し、相手に自分の考えをしっかりと伝えられるようになります。また、現役の会員だけでなくOB会員との関わりも増え、地域の経営者の方々と接する機会が多くなり、人とのつながりが広がります。

私たちの活動エリアである石巻市、東松島市、女川町では持続可能なまちづくりが進んでおりますが、地域が抱える課題は多く存在します。私たちはその課題や問題を的確に捉え、その解決に向けて積極的に行動することが求められています。地域のみらいについて熱い議論を交わしながら事業を構築し、その運動が地域の課題解決となり、地域貢献に繋がります。自分たちの力で新たな時代を築く為、積極的に行動してまいります。

地域の明るいみらいの実現に向け、共に行動する仲間のご入会をお待ちしております。

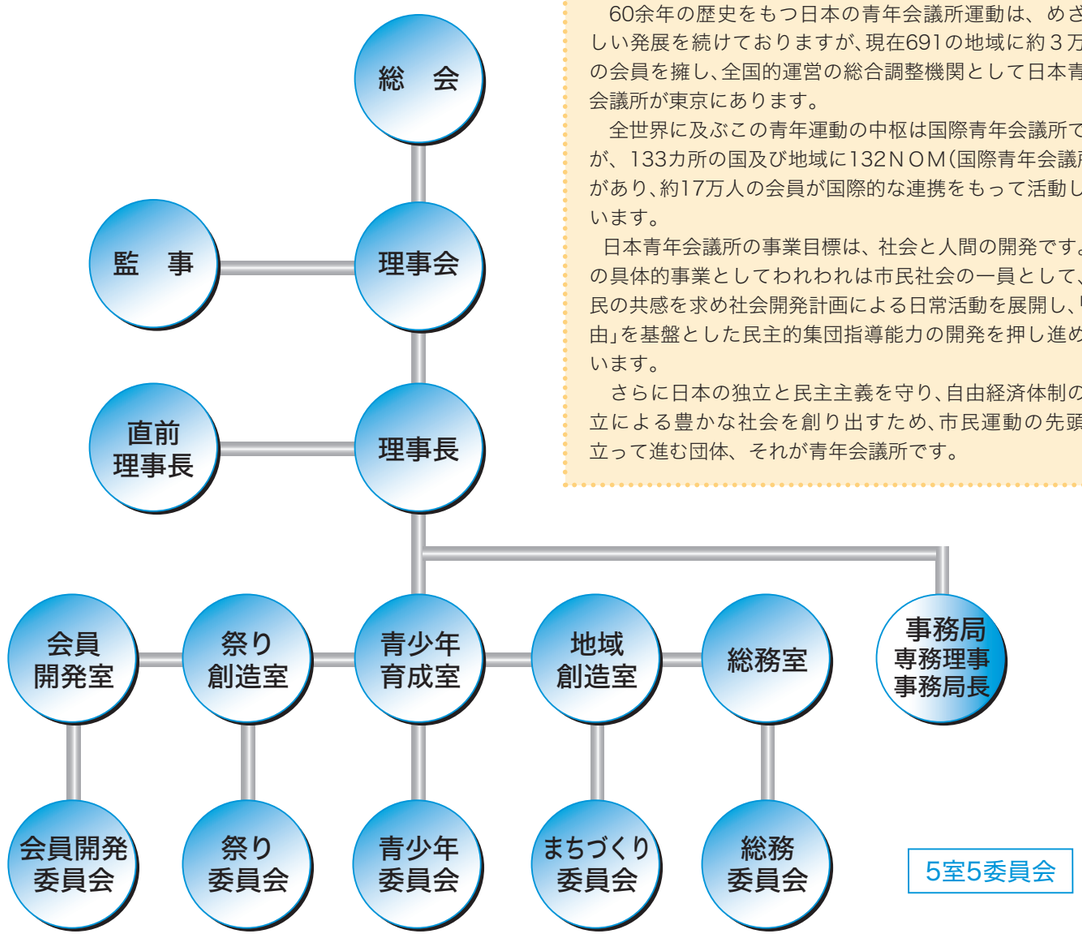
一般社団法人　石巻青年会議所
理事長　木村　英勝

目　次

理事長挨拶 …… 2
青年会議所とは …… 3
特別対談　次代を担う二つの青年組織　代表が語る想いとは …… 4
一般社団法人　石巻青年会議所 理事長　木村　英勝 × 石巻商工会議所青年部 会長　鈴木　孝正
2022年度開催事業／2021年度事業紹介 …… 6
委員会紹介 …… 7

青年会議所とは

一般社団法人　石巻青年会議所
2022年度組織図



What's JC

青年会議所（ＪＣ）は明るい豊かな社会の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各都市の青年会議所に入会できます。

60余年の歴史をもつ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けておりますが、現在691の地域に約３万名の会員を擁し、全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。

全世界に及ぶこの青年運動の中枢は国際青年会議所ですが、133カ所の国及び地域に132ＮＯＭ（国際青年会議所）があり、約17万人の会員が国際的な連携をもって活動しています。

日本青年会議所の事業目標は、社会と人間の開発です。その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員として、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し、「自由」を基盤とした民主的集団指導能力の開発を押し進めています。

さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創り出すため、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所です。

LOM基本データ

創　立	1964年（昭和39年）６月23日
承　認	1965年（昭和40年）２月21日　第291号
スポンサーＪＣ	公益社団法人　仙台青年会議所）
法人認可	1982年（昭和57年）12月21日
姉妹ＪＣ	茨城県ひたちなか市 一般社団法人　ひたちなか青年会議所
友好ＪＣ	群馬県桐生市 公益社団法人　桐生青年会議所
会員数	61名（男性53名　女性８名）　※2022年２月28日現在
理事長	第58代　木　村　英　勝

JCI Ishinomaki

特別対談

次代を担う二つの青年組織
代表が語る想いとは

石巻商工会議所青年部
会長
鈴木　孝正氏

一般社団法人 石巻青年会議所
理事長
木村　英勝氏

JCとは

青年会議所（JC）は、20歳から40歳までの志の高い青年経済人によって『奉仕』『修練』『友情』という三信条のもと、『明るい豊かな社会』の実現を目指す青年団体です。

YEGとは

商工会議所青年部（YEG）は、次代の地域経済を担う青年経済人の相互研鑽の場として、また、資質の向上と会員相互の交流を通じて、自企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的に設立された団体です。

会員拡大について

木村：今日はよろしくお願いします。それでは早速対談の方始めさせて頂きます。対談でまず初めにお聞きしたいのが会員拡大の件なんですが、石巻青年会議所では近年卒業生の人数が多く会員数が減少傾向にあり、今年度は56名でのスタートとなります。（※2022年1月1日現在）

鈴木：こちらこそよろしくお願いします。私が現役の時は70名前後でしたね。

木村：そうですよね。概ね70名前後で推移していた会員数ですが、近年卒業生の数が多く会員数が減少傾向にあります。コロナの影響もあり会員拡大が難しい状況が続いております。

木村：鈴木会長はじめ、最近のYEG会長は皆さん若いですよね？そこは組織として何か意図があっての事なのでしょうか？

鈴木：2015年にYEG東北ブロック大会がありました。そこでJCの皆さんにも手伝っていただく中で、JCからYEGに加入して頂いたり、YEGメンバーも若い人はJCに加入しようという動きが活発になりました。

私がYEGに加入した当初は会員数が30人ほどで、実際に活動していたのは20人にも満たなかったと思います。

木村：現在のYEGさんの会員数は何人ぐらいなんですか？

鈴木：70人ほどで、55歳まで在籍できます。コロナの影響で、YEGも事業が思うようにできず、会員拡大も積極的には行っていません。

YEGは基本的にJCを卒業したOBを中心に声がけをしています。

木村：JCを卒業したらYEGさんに入る流れも出来つつありますね。

鈴木：今は仲良くさせてもらっていますが、その流れができたのはここ十年くらいですね。

川開きについて

木村：2年間開催されておらず、JCとしてちびっ子ユーチューバー、茅の輪展示、パネル展等の代替え事業を色々行ってきたが、今年は願わくば通常開催プラスαで発信していきたいという気持ちはあります。

木村：JC単独の代替え事業になると、どうしても集客力が劣ってしまいます。我々が子供の頃は、夏休みといえば川開きで、休み中になかなか会えない友達にあって話をしたり、浴衣姿で出かけたり、楽しい思い出が沢山ありますね。それを今の子どもたちが味わう事が出来ない、思い出に残らないのは非常に残念に感じます。

鈴木：中学生高校生が祭りに携わる機会が減ってしまっている。鼓笛隊もそうだが小学6年生最後の鼓笛隊パレードが無いとなると、インパクトも大きいと思う。コロナ前はあったのに自分の時は無いというのはとてもかわいそうですね。

鈴木：今回ユーチューバーの事業を行ったが、実際の鼓笛隊とはやはり違う。

木村：鼓笛隊を見に、両親やおじいさん、おばあさんが沿道に並んで、子ども達もプレッシャーを感じながら歩いて…。

鈴木：それが終わったら、みんなで出店に行ってご褒美を買ってもらって、祭りを楽しむ。という事ができない。

木村：当時経験した思い出は、我々も覚えていますからね。それが帰属意識にも繋がりますし、そういう人たちが大人になって自分たちが楽しませてもらった祭りに何かしたいなとか、手伝いたいなと思ってくれる人が増えれば街としてはすごく好循環だと思うんですよね。

鈴木：小中学生もそうだけど、高校生や大学生、特に専修大の学生には、いつも川開きを手伝ってもらっている。サン・ファン祭りもそうだけど、そういうことが2年もやってないと離れていってしまうというか、大人に近い人たちが関わってくれなかった2年間は大きいと思う。石鳳祭の実行委員の人達に川開き、サン・ファン祭りを手伝ってと声をかけても引き継ぎもされてないわけだから。そこが怖いというか…。

木村：川開きで道路が歩行者天国になって、人がごった返しているのをみると、石巻にこんなに人がいたんだと驚いたのを覚えていますね。勿論、圏域外から人を呼び込むイベントだったという事もありますが。

鈴木：橋通りなんか、殆ど通れなくなるもんね（笑）

木村：そうですよね。川開きのような大きなイベントを運営するのは大変ですが、その部分を若い人たちに見ていただくというのも大切なことだと思います。今年は是非開催したいですね。

ただ去年、私も祭り委員会の室長として、鈴木会長と川開き実行委員会の会議に出席していましたが、実際に開催するとなると様々な課題があると思います。新しい橋ができて、歩行者天国が難しいとなると、整備の進んだ川沿いをうまく利用する等の方法も考えているのですが…。

鈴木：でも何とか開催したいよね。

協力体制について

木村：今のところ直接の協力体制というわけではなく、川開き実行委員会を通して協力している形になっていますね。お互いの組織が、それぞれ一年間の事業計画があって、その中でやるとなったら、前の年、または何年かかけて計画する形になりますかね？

鈴木：JCは事業計画をはじめ、様々なことをしっかりと決めて行動していると思うけど、YEGのメンバーはJCさんからお声がけいただければ、いつでも動きますよ（笑）

木村：できれば協力体制として、どちらかが事業をやるときには人手を出すという事をやっていきたいです。その最たるものが川開きだとは思いますが。YEGさんの心のあかりのイベントの時にもお手伝いにいきたいと思います。同年代の人間がいる組織同士なので、お互いにどんな事業をやっているのかを把握しておきたいですよね。

まずは年に一回でもいいのでお互いの事業に参加して、次の年は二回にするとか、徐々に交流を深めていきたいですね。ともに、石巻圏域で活動している団体なので、合同例会なんていうのも面白いですね。

鈴木：何年か前に一度やったね。その時は他団体も呼んで人が多くなりすぎてしまったけど（笑）

その時は、合同事業説明会みたいな形でそれぞれの団体が行う事業を説明し、協力し合えることは協力しましょうという話をした。

全体の例会じゃなくても、JCだったら理事会メンバー、YEGだったら役員会メンバーで集まって話をするのも良いかもしれない。

木村：なるほど、それもいいですね。

鈴木：きちんとした例会じゃなくても良いから、今後行う事業を説明しあって、協力できる場面があればお互い協力しましょうという話で良い。今はそういう機会が無いから、手伝ってほしくても遠慮してしまう部分もあると思う。JCI石巻は新年度が動き始めたし、2月、3月にでも年度の早いうちにそれができれば、良いと思う。例えば、サン・ファン祭りを手伝ってほしいでも良いし、それが有志での参加になっても良いと思う。

事業説明会には商工会議所の会議室を使ってもらっても構わない。それが終わったら懇親会があってもいいかもしれない。まずは交流して仲良くなることが一番大切だし、その中で話をしたほうが、伝わりやすい事もあるかもしれない。YEGのメンバーにはJCI石巻OBでない方もけっこういるので。その際は、先輩・後輩関係なく、同じ青年経済人の団体として同じ立場で話が出来れば良いと思っている。

木村：ありがとうございます。そうですね。是非、実現させたいです。毎年行えると良いですね。

鈴木：そうだね。一回で終わったのでは勿体ない。まずはJCとYEGで継続して交流を進めて、それが上手くいったら、他団体に輪を広げていくのも良いと思う。

木村：そうですね。石巻圏域には、様々な団体が存在し活動していますが、市民から見たら、どの団体がどんな運動発信をしているのか非常に分かりにくいと思います。

鈴木：JCとYEGの違いも分かりにくいもんね（笑）

どちらにしても我々の運動発信が市民に届けば良いよね。

木村：そうですね。

鈴木：この対談を機に、まずお互いの顔を知る為の交流会から始めましょうか。

木村：是非、お願いいたします。

東日本大震災の時の話

鈴木：YEGに入っていたからこそ、震災を乗り越えることができた。インフラの整備や、融資に至るまで横のつながりがあったからこそ、今がある。JCの炊き出しもそうだけど、何かあった時に助けてくれる人がいる。「助けて」って言える人がいれば、心が軽くなると思う。JCやYEGに入ることによって石巻の繋がり、県の繋がり、東北の繋がり、全国との繋がりが出来る。そういうことを知らない人も結構いて、勿体ないと思う。補助金の申請なんかもそうで、商工会議所からの情報で申請がスムーズにいった。「助けて」って言った時に、それを聞いてくれる人がどれだけいるかという事も大事だと思う。

「知ってる人を知っている」ある先輩の言葉。自分一人で全ての事を知れるはずがないのだから、補助金でも保険でも知ってる人を知るようにしましょうという言葉になるほどなと思った。若い人だけだとそういうことは難しいかもしれないが、石巻YEGは55歳までの人が在籍しているので、知ってる人を教えて下さいという事もできる。それが自分の財産になっている。

木村：ありがとうございます。最後に今年の抱負をお聞かせいただければと思います。

今年の抱負・スローガンの想い

鈴木：抱負というかスローガンである「縁、援、円」縁は人の繋がり、援は自分たちもしてもらった、被災地や困っている人への援助、一番大事なのは円、お金を稼げなければ、この活動自体が出来ないので、このスローガンにしました。私は元々、人と話すことが苦手で町興しなんてと思っていたタイプだったが、YEGに入り、青木先輩（現会頭）達と知り合って仲良くなってから、石巻をどうやったら楽しくできるのかという事を考えるようになった。そこから始まって今の自分がある（会長職）。最初は出来ないと思っていたが、先輩たちから教えてもらったことや、色んな人との関わりの中で、自分自身が変わっていった。そのことを出会った人に教えてあげたい。その気持ちが色んな事業になっていった。

木村：私の今年度の抱負としましては自分を含めて会員一人ひとりに成長する機会が訪れるような活動をしていければと思っています。また、楽しくないと活動も続かないと思いますので1年間みんなが楽しく過ごす環境を提供できればと思います。それと、これはJCの本質なのですが地域のために出来ることをやっていこうと思っています。

木村：今日はお忙しい中機会を設けていただきありがとうございました。

鈴木：こちらこそありがとうございました。

委員会紹介

会員開発委員会

委員長　齋藤　彩香

会員開発委員会は石巻青年会議所のメンバーとして共に活動し切磋琢磨できる仲間を集い、新入会員のサポートをしながら活動している委員会です。１年を通して会員拡大に取り組むとともに、活動内容や会員それぞれの学びを共有する情報紙を毎月発行します。また、６月には現役会員とＯＢ会員との親睦会を行い、11月には新入会員が主体となったクリスマス会の事業も担当します。新入会員と共に楽しく活動できるよう頑張りますので地域の皆様よろしくお願いします！

青少年委員会

委員長　松本　怜大

青少年委員会は、継続事業として毎年「サン・ファン祭り」の企画・運営を行い、主に青少年育成事業を中心に活動しております。ＪＣＩ石巻が圏域の青少年の豊かな社会を創造するために、青少年を取り巻く圏域の現状を学ぶ機会を作ります。圏域の歴史や魅力を伝える祭りや例会の開催などの活動をする委員会です。このまちをより良くするために委員会メンバーが一丸となり楽しく活動しています。圏域の皆様よろしくお願いします。

祭り委員会

委員長　髙橋　晃樹

祭り委員会では、青年会議所の基礎や知識を講師から学ぶ４月新入会員セミナー、今年こそは開催して欲しい！圏域最大のお祭り川開き祭り事業、10月例会を担当しております。

例年行われてきた大縄引き大会やブース事業は２年連続形式を変えての事業となっております。今年こそはコロナに負けず川開き祭りの開催を願っております！圏域の皆様、開催の際にはご協力宜しくお願いいたします！！！

まちづくり委員会

委員長　粟野　風人

まちづくり委員会は、圏域の皆様が参加できる4月の公開講演会をはじめ、２月例会、青年会議所の基礎・知識を入会１年未満の会員に伝える10月新入会員セミナーの開催を担当しています。また広報としてホームページ・SNSの更新を行い、そして石巻市と連携して行う政策コンテストも担当させていただきます！これまでと違った視点で楽しめる事業構築をしてまいりますので圏域の皆様よろしくお願い致します！

総務委員会

委員長　飛田　昂志

総務委員会は１月と８月の計２回行われる定時総会の開催、12月に行われる卒業例会の開催など１年の始まりと終わりを担当する委員会であり、また会議体である我々の活動を行う上での意思決定の場でもある理事会の設えや、それに伴う議事録の作成、毎月開催される例会のセレモニーを担当している組織の運営に大きく関わる委員会となっています。石巻青年会議所の「縁の下の力持ち」として組織を支えて行きますので圏域の皆様よろしくお願い致します。

こちらで理事長・各委員長の2022年の抱負をご覧頂けます。
是非覗いてみて下さい！

2022年度 開催事業

４月公開講演会

腹を割って話そう！
～水曜どうでしょう的発信術～

日時　2022年４月23日（土）
14時～ 15時30分
（13時開場）

会場　石巻市遊楽館

定員　先着300名

入場無料

2022年４月23日（土）、石巻市遊楽館にて４月公開講演会「腹を割って話そう！～水曜どうでしょう的発信術～」を開催します。

あの爆発的な人気を誇るローカル番組「水曜どうでしょう」の立役者であるディレクター藤村忠寿氏、嬉野雅道氏をお招きし、この石巻圏域の魅力をお二人ならではの切り口で掘り下げていただく講演会となっております。

是非ご参加ください！

2021年度 事業紹介

市政公開討論会

2021年４月10日（土）、４月公開例会「石巻市長選挙に伴う石巻市市政公開討論会」をオンライン形式で開催いたしました。

今回の市長選は震災から10年という節目でもあり、私たちの活動エリアである石巻市が復興から再生に向けてどのようにプロデュースされていくのか、非常に注目度が高い選挙でした。当初は会場とオンラインを併用した開催を予定しておりましたが、宮城県独自の緊急事態宣言の発令、そしてまん延防止等重点措置が適用されている現状を鑑み、動画投稿サイト「Youtube」を活用したオンライン配信のみという形での開催とさせていただきました。討論会終了後から公開させていただいておりましたアーカイブ動画は、延べ約2,500名の方にご視聴いただきました。昨今の情勢に即した開催形式の経験を今後の私たちの運動発信に活かしていきたいと思います。

ちびっ子ユーチューバーが行く！ 謎解きたから探しツアー

2021年８月１日（日）石巻圏域の小学生12組17名を対象に、石巻の歴史を知ってもらい郷土愛を醸成することを目的として学びと遊びを融合させた本事業を開催しました。

「鋳銭場跡」、「縄張神社」、「大島神社」を撮影スポットとして、小学生にユーチューバー体験を通してパネルワーク、なぞとき、宝探しアトラクションをしながら学んでいる姿を動画に収めました。収録した動画は石巻市青年会議所Youtubeチャンネルでご覧いただけますのでぜひご視聴ください。